

## 5章 水道事業の課題のまとめ

3章、4章で示した本市の水道事業における課題（現状、将来、アンケート分析結果）について、新水道ビジョンにおける『安全』『強靭』『持続』の三つの観点で整理したものを表-5.1、表-5.2、表-5.3に示します。

表-5.1 新水道ビジョンの「安全」・「強靭」・「持続」に関する  
本市水道事業における課題一覧（現状の課題）

課題No	頁	現状の課題	課題に該当する視点					
			安	全	強	靭	持	続
課題No	頁	水源						
No 1	23	◆水需要の減少に伴い計画取水量と実績に乖離があるため、水運用の見直しが必要です。			●			
課題No	頁	取水・導水・浄水・送水施設						
No 2	24	◆水源地・清里総合ポンプ場及び水源センターの導水管及び設備については約90年が経過し老朽化が進行しています。水運用の面からも施設の統廃合の検討が必要です。			●			
No 3	27	◆白石堰から金山分水場までの菊池川系の導水路（隧道）については四者において改修計画等の検討が必要です。			●			
No 4	27	◆延命系送水管は老朽化して耐震性を有していないため、計画的な更新が必要です。			●			
No 5	27	◆福岡県南広域水道企業団の荒木浄水場から甘木配水池までの送水管は約32kmと長く、1系統で送水しているため、災害等に備え2条化の検討が必要です。			●			
課題No	頁	配水施設						
No 6	29	◆延命配水池の老朽化が進行し、耐震性を有していないため、更新が必要です。			●			
No 7	29	◆大規模地震時における基幹配水池3箇所（甘木、延命、四箇）の流出被害防止及び飲料水確保のための緊急遮断弁の設置が必要です。			●			
No 8	32	◆経年化管路率は減少しているものの、老朽管が約130km存在し、全管路に占める割合は高い状況にあり、老朽管延長は今後増加していくこととなり、更新事業を実施しない場合、漏水や災害時の断水事故等のリスクが高くなります。今後も継続的に更新事業を実施していく必要があります。			●			
No 9	32	◆残りの配水ブロック化を計画的に進める必要があります。	●		●			
No 10	32	◆有効率・有収率の向上に向けた取り組みが必要です。				●		
No 11	32	◆管路情報についてはデータベース化を行い、マッピングシステムの構築が必要です。				●		
No 12	32	◆配水設備は延命化とともに、計画的な更新が必要です。			●		●	
課題No	頁	給水装置等						
No 13	35	◆鉛管を使用している人への周知・啓発活動を今後も継続して実施していく必要があります。	●					
No 14	35	◆鉛管の解消に向け、効率的な実施計画を策定するとともに、老朽管更新事業等との連携を図る必要があります。	●					
No 15	35	◆小規模貯水槽水道の設置者に対して保健所と連携しつつ、国に登録されている検査機関等での受検について周知・啓発する必要があります。	●					
課題No	頁	水質管理						
No 16	38	◆水源から蛇口に至るまで全ての工程において適切な水質管理が必要です。	●					
課題No	頁	危機管理						
No 17	39	◆マニュアル検証を目的とした定期的な訓練の実施が必要です。	●		●			
No 18	39	◆上位計画及び組織体制の変更等にあわせた適切な見直しが必要です。	●		●			
No 19	39	◆水道事業運営BCP（事業継続計画）の策定が必要です。	●		●			
No 20	39	◆有明圏域定住自立圏の近隣市町と更なる連携を図る必要があります。	●		●			

●…課題が該当する3つの視点

現状の課題			課題に該当する視点					
課題No	頁		安	全	強	靭	持	続
課題No	頁	組織体制と経営改善の取り組み						
No 21	43	◆将来を見据えた人材配置の適正化や更なる事業効率化の推進が必要です。				●		
No 22	43	◆水道全般の効率性を示す指標値(職員一人当たり給水収益及び配水量)の向上に向けた取り組みが必要です。				●		
No 23	43	◆配水管の管理や漏水調査等(配給水)の直営実施については、事業の経済性・公共性を担保しつつ人材育成や技術継承の観点や、経営基盤強化を踏まえた見直しの検討が必要です。				●		
No 24	47	◆民間への委託範囲の拡大や、さらなる事業効率化の推進が必要です。				●		
No 25	47	◆窓口サービスの市民からの信頼や利便性を向上させるため、市民ニーズを把握するとともに、更なる総合的な市民サービスの向上を図る必要があります。				●		
課題No	頁	経営の状況						
No 26	52	◆人口減少に伴い、将来世代への負担を軽減させるためにも、企業債残高を計画的に減らしていくことが必要です。				●		
課題No	頁	経営指標による分析						
No 27	59	◆本市の経営指標は概ね全国類似団体平均値と同等ですが、流動比率や管路経年化率は全国類似団体平均値より低い数値であるため、経営改善の検討や計画的な管路更新の継続実施により事業経営の健全化に努める必要があります。				●		
課題No	頁	市民との連携						
No 28	60	◆さまざまな機会をとらえ、水道水のイメージアップを図りながら、水道水に対する信頼性向上の取り組みに努める必要があります。	●		●	●		
No 29	60	◆水道事業についての情報の発信と市民ニーズの把握に努め、水道事業をより身近に感じ、関心を持ってもらえるよう、広報啓発の充実を図っていく必要があります。	●		●	●		

●…課題が該当する3つの視点

表-5.2 新水道ビジョンの「安全」・「強靭」・「持続」に関する  
本市水道事業における課題一覧（アンケート分析結果から見える課題）

アンケート分析結果から見える課題			課題に該当する視点					
課題No	頁		安	全	強	靭	持	続
課題No	頁	水道利用者アンケート						
No 30	70	◆水道水をそのまま飲んでいない方の割合は飲んでいる方に比べて20%以上低いため、水道水が安全であることを広報等で周知し、飲用度の向上に努める必要があるといえます。	●			●		
No 31	70	◆水道水の飲用度にかかわらず、水道事業において知りたい情報として「水道水の水質」を選んでいる人が多いため、認知度が高い広報おおむたや企業局HP等の充実化を図り、水道事業の適切な情報提供が重要であるといえます。	●			●		
No 32	70	◆災害時の飲料水、生活用水の備えを何もしていない意見が多いため、水道水の安全性を周知するとともに、災害時に備えた水道水の備蓄等、積極的な啓発活動が重要であるといえます。	●			●		
No 33	70	◆水道事業の重要度では、「安心して飲める水道水の供給」、「いつでも水が使えること」、「地震等の災害に強い水道施設」の比率が80%以上高いことから、安心かつ安全に災害時にも水道が使用できる水道システムの構築がニーズとしてあげられます。	●		●	●		
No 34	70	◆水道事業全般における満足度評価では、不満及びやや不満の意見の合計が「おいしい水の供給」で11%(482件中53件)、「安心して飲める安全な水道水の供給」で9%(482件中45件)、「経費削減など水道事業経営の効率化」で10%(482件中49件)、「利用者への十分な広報、情報提供」で9%(482件中41件)であり、水質管理及び事業経営の効率化の向上や利用者への情報提供の強化が必要です。	●		●	●		

●…課題が該当する3つの視点

**表-5.3 新水道ビジョンの「安全」・「強靭」・「持続」に関する  
本市水道事業における課題一覧（将来の課題）**

課題No	頁	将来の課題	課題に該当する視点		
			安 全	強 靭	持 続
課題No	頁	給水人口・給水量の将来見通し			
No 35	72	◆人口減少の見通しから水需要量の減少が予測されるため、対応策を検討する必要があります。			●
課題No	頁	水運用の見通し			
No 36	73	◆将来の水需要予測を考慮した各水源の水運用について見直しが必要です。			●
課題No	頁	施設の効率性			
No 37	75	◆施設利用率を踏まえた水道施設全体の見直しが必要です。			●
No 38	75	◆給水量の減少から配水管口径の適正な見直しが必要です。		●	●
No 39	75	◆甘木配水区域と勝立配水区域間の配水の相互融通を行うための整備が必要です。		●	●
課題No	頁	資産管理による更新需要の見通し			
No 40	83	◆毎年10億円以上の更新需要がかかるため、資金残高は直近の2018(平成30)年度に不足する見通しとなることから、施設の状況を踏まえた更新が必要です。	●	●	●
No 41	87	◆施設の水運用や施設の重要度、耐震性等を踏まえ、優先度を考慮した更新が必要です。		●	●
No 42	87	◆更新需要に対する財源の確保が必要です。			●
課題No	頁	老朽管更新事業の取り組み			
No 43	91	◆老朽管更新事業は永続的に続いていくことから、優先度を考慮しながら進める必要があります。		●	●
No 44	91	◆更新財源を確保するため、経営基盤を強化する必要があります。			●
課題No	頁	経営基盤強化の取り組み			
No 45	92	◆事業運営の効率化・健全化を図るために、「ヒト・モノ・カネ」の経営資源を有効利用した戦略的な経営に取り組む必要があります。			●
No 46	93	◆技術基盤の維持のために、熟練技術者による内部的な継承の取り組みのほか、民間活力を有効活用するなど多様な方策も検討する必要があります。			●
No 47	93	◆これまで、荒尾市と共同でありあけ浄水場を整備するなど施設の共同設置に取り組んできましたが、更なる事業効率化の観点から、周辺事業体と連携した新たな広域化を検討する必要があります。			●

●…課題が該当する3つの視点